

スペイン語の教科書についてのアンケート（教員）

実施期間：2019年12月24日～2020年1月12日

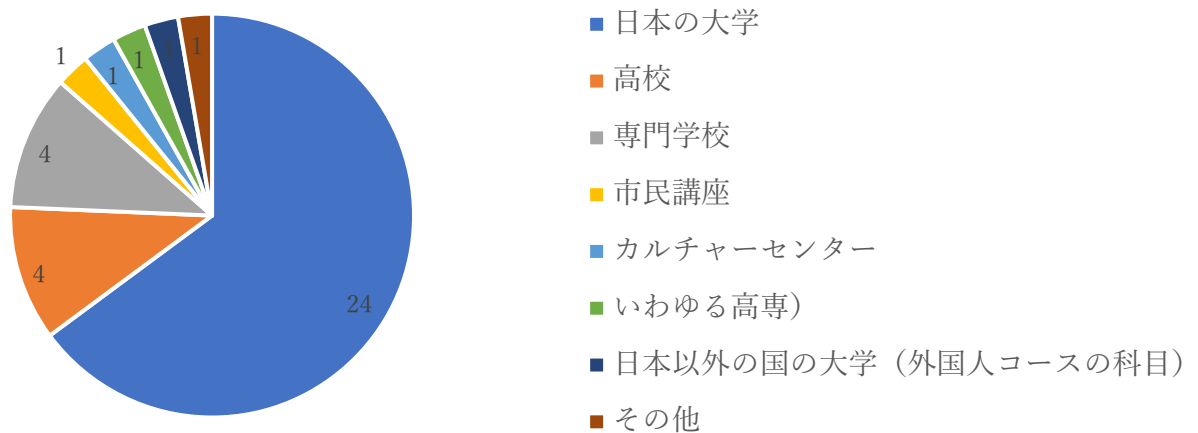
実施主体：関西スペイン語教授法ワークショップ（TADESKA）

回答者数：25

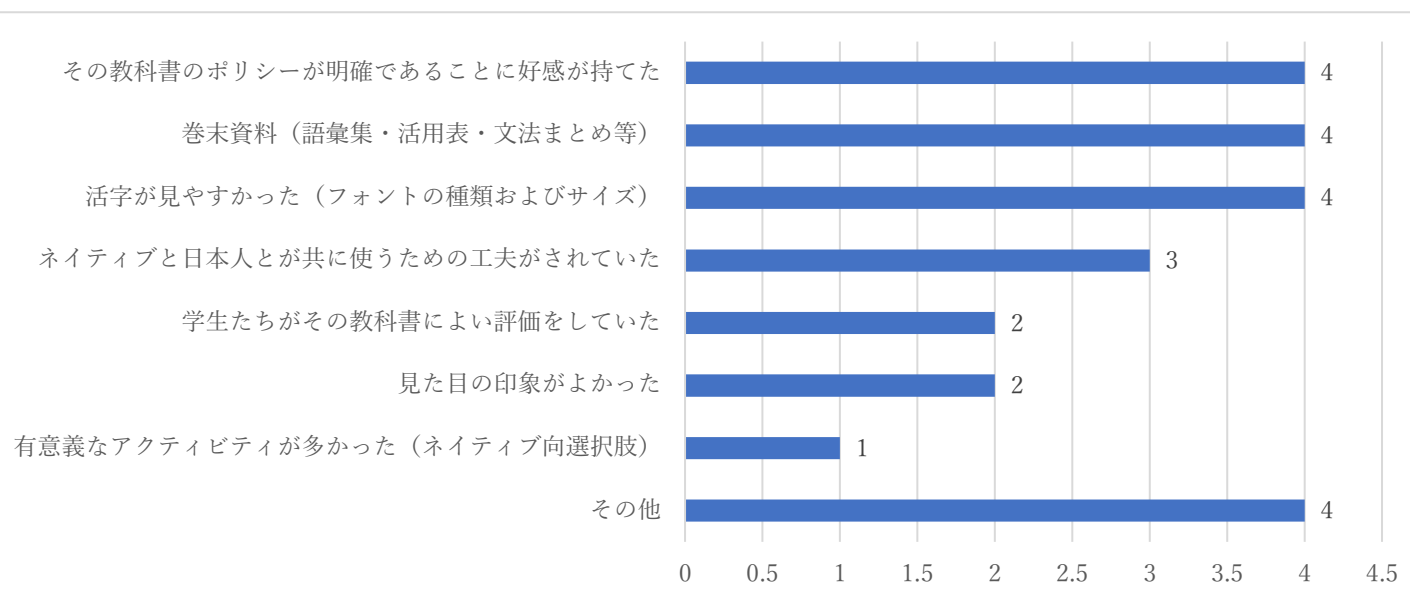
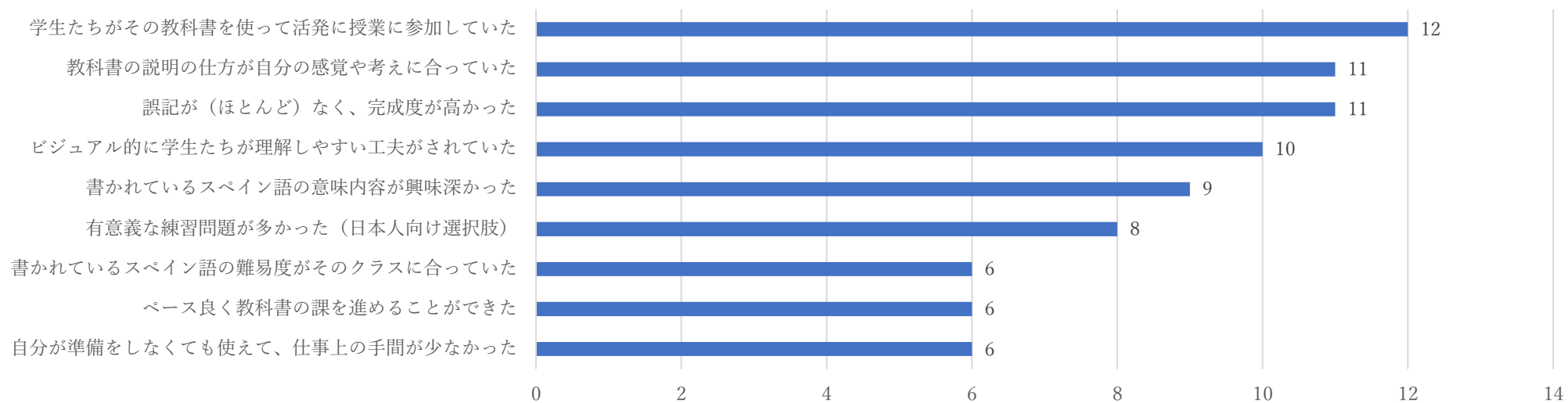
【この資料について】

- 2020年2月25日の「第11回関西スペイン語教師の集い」で使用する資料の配布バージョンです。この資料やこれを改変したものを拡散させないようにお願いします。
- 紙幅の都合上、アンケートの文言を部分的に言い換えています。また、スペイン語の回答を日本語訳して掲載しています。
- やや表現が厳しいと思える部分が回答内にありましたが、立場が異なるためお互い見えにくいことがあるためかと考え、文言は修正していません。誤解に基づくものであれば、この機会を利用して解消に向かえば願ったりかなったりです。

Q1 これまでにスペイン語の教科書を用いて授業を行ったことのある場所



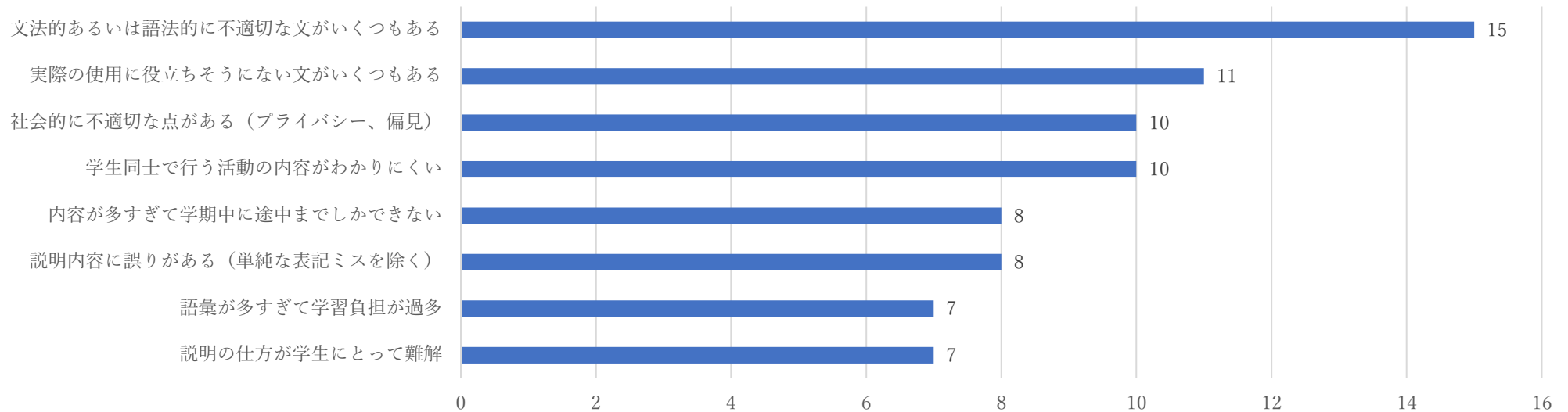
Q2 使用しているその教科書の「よさ」を実感したのはどういう時ですか？

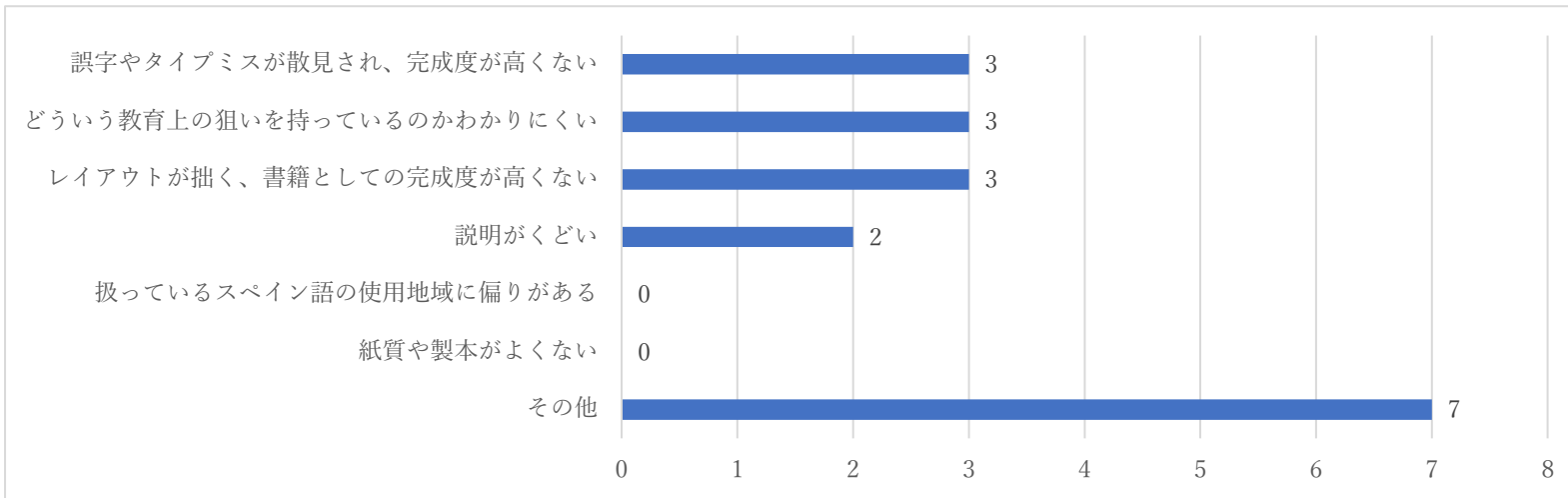
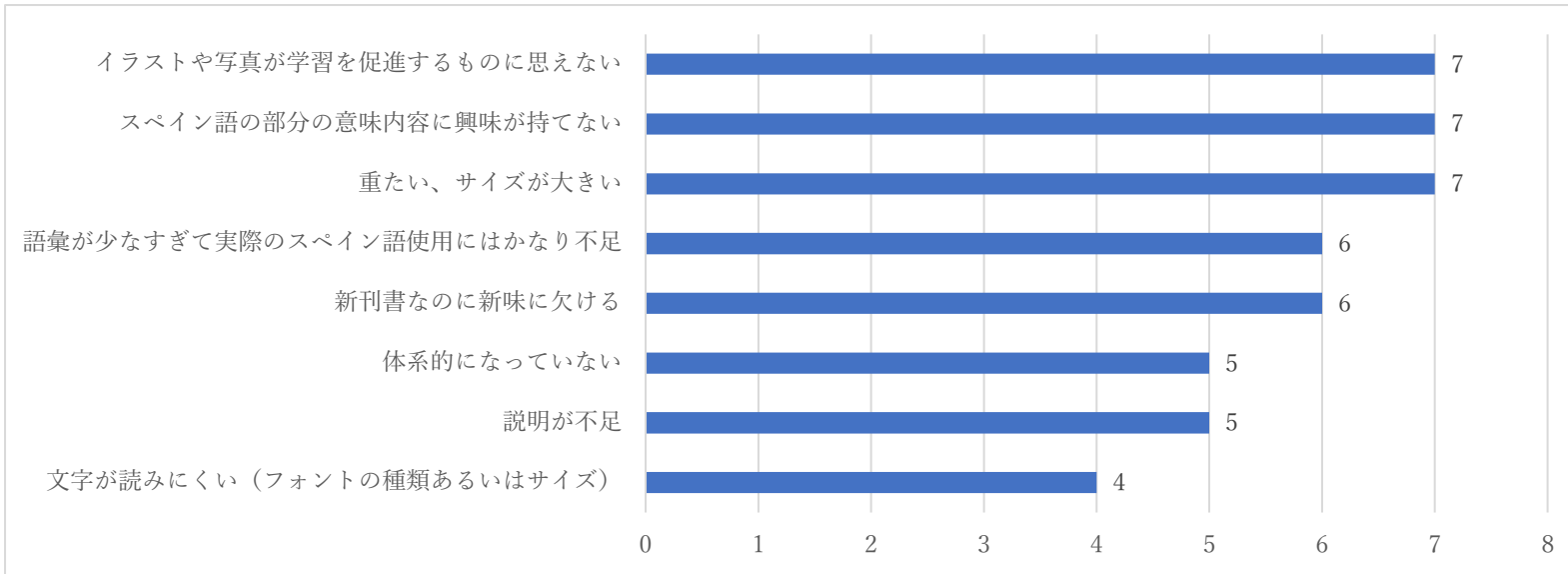


Q2 「その他」内訳

- 練習問題が多くついていて、教員が別のプリントなどを用意する手間がなかった。
- 学修項目は少なかったものの、各課で習得させたいポイントが単純かつ明確に分かった。
- 会話などの内容が、学生たちが面白みを感じるよう工夫されていた（彼氏や彼女に関連したやり取りであったり、登場人物のキャラクターをうまく作って使っていたりした）。
- ネイティブの視点で、**dormir**⇔**dormirse** (=empezar a dormir) とか **encontrar** は<「初めまして」には使えない>とか、他書にはあまり触れられていない記述に出くわしたとき（教師にとって目からうろこ）。

Q3 教科書を授業で使用していて、「よくない」「使いにくい」と感じたのはどんな点ですか？ (複数回答可)



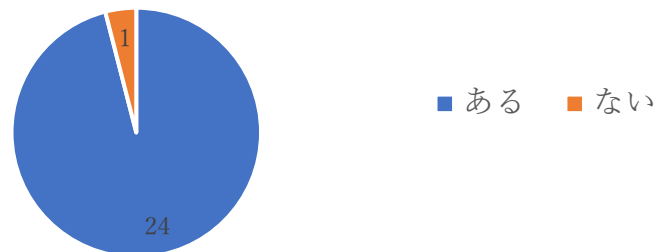


Q3 「その他」内訳

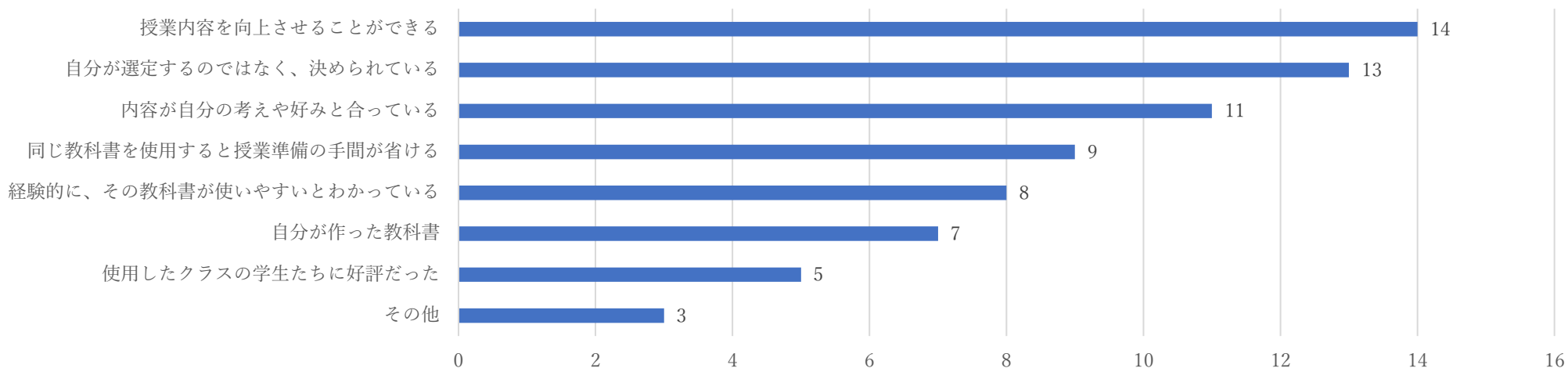
- 練習問題が少なく、くり返して習得するに至らない。
- 冠詞の用法などに無頓着で、ノンネイティブの教員が例文を説明しきれない。

- 付録の録音音声の読み方が初級学習上理想的でない。
- 中級文法で扱うべき内容が散見される。
- ほかの本や練習問題からの剽窃。
- venir の活用は後半に紹介されているのに、venir が前半に何度も出てくるなど、順序に配慮がされていない。
- 所有形容詞など扱って欲しい基本的な文法事項が入っていない。

Q4 これまでに使った、あるいは現在使っている教科書のうち、
繰り返し使用しているものはありますか？



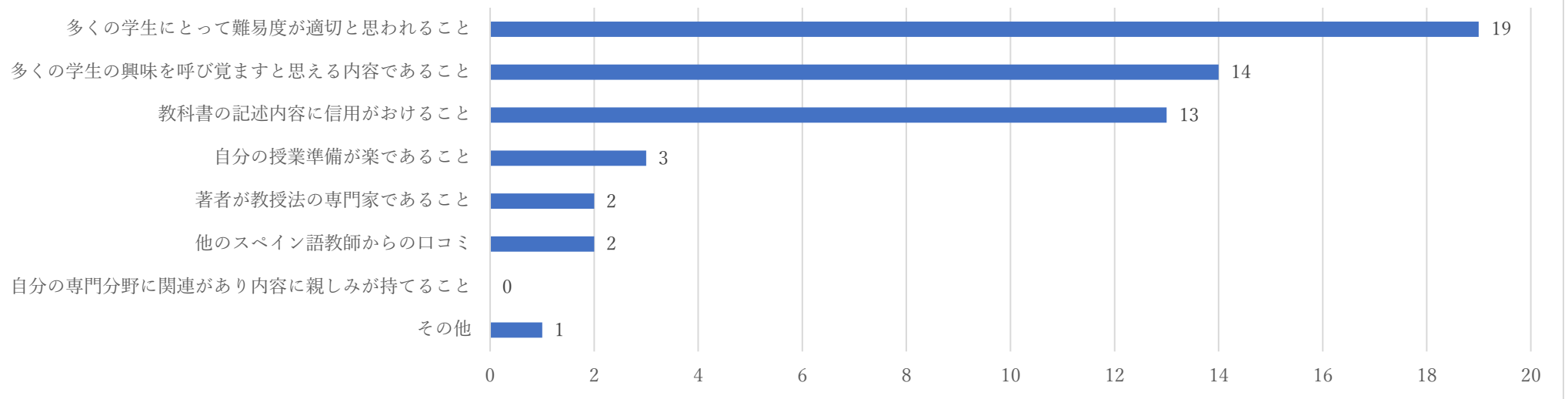
Q4-1) 繰り返し採用したのはなぜですか？（複数回答可）



Q4-1) 「その他」内訳

- その授業のレベルに合う教科書が少ないので、同じものを使わざるをえない。
- 指定されている。
- 初年度だけは「自分で作った教科書」を予定日（4月）に出版させるために、一年だけ使用するつもりだった（←結果、5月にずれ込む）が、その大学のカリキュラムでは、セメスターで少しずつ進んでいく学生がいるために、次年度も教科書を変えないようにすることが望まれていたため、繰り返し使うことになった。

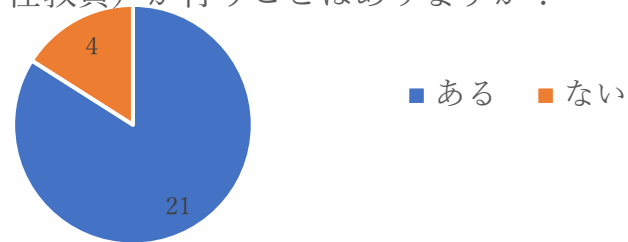
Q5 自分が使用する教科書を自分で選定する際、どんな点を重視しますか？（複数回答可）



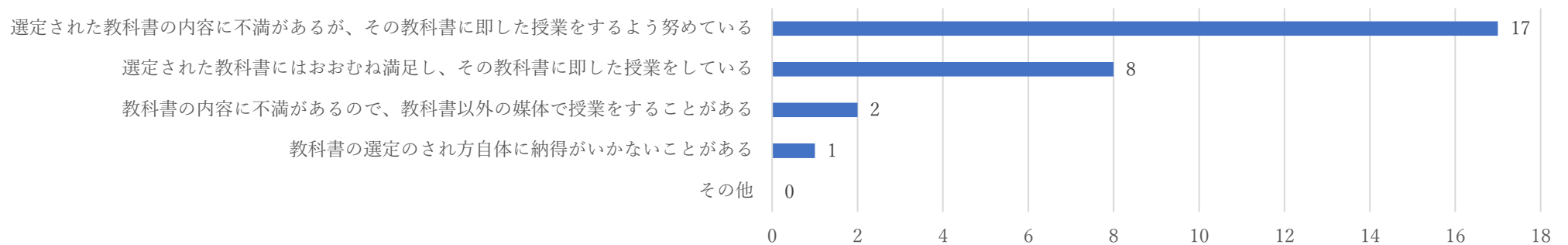
Q5 「その他」内訳

- 知り合いの人が作成した教科書を優先的に採択している。誤記などを伝えやすい。

Q6 あなたが使用する教科書の選定を、あなた以外の人
(例えば専任教員)が行うことはありますか？



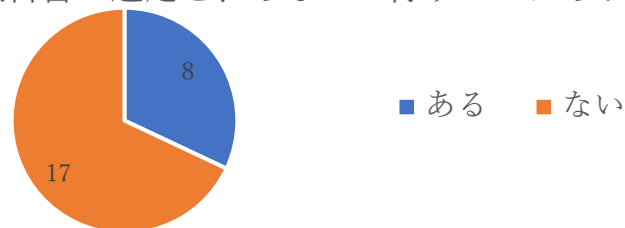
Q6-1 次のうち、自分の経験に近いものを選んでください。(複数回答可)
(複数のケースで異なる経験をした場合、選択肢に矛盾が出るかもしれませんが、構いません)



Q6-2 自分以外が選定することによって生じる問題点があれば、お書きください。

- クラスに関する情報をもたずに授業を引き受けることが多く、教科書のレベルがあっていないことにあとで気づくことがあった。
- 教師個人に好みがあるので、特定の1冊の教科書が担当教員にとって満足のいくものであるとは限らない。その結果、補足プリントを作ったりといった手間が増える可能性もある。
- 進み方まで指示されていると、大慌てで進まないといけない項目が出てくる。
- 補助教材を作成する手間がかかる。
- 自分が納得できないような内容や文法形式の例文があると、学生の前で批判的なコメントをしてしまうことがある。よくない例を教条的に教えたくないが、教科書の信用を落とすことをしたくないので、葛藤がある。

Q7 他の教員が使用する教科書の選定を、あなたが行うことはありますか？



Q7-1 そのようにする必要性やメリットについてお書きください。

- 同じシラバスにそったプログラムである場合はそろえる必要があると考えています。また、学期ごとあるいは学年ごとにクラス替えがある場合に教科書とおおよその進度がそろっていないと教えづらいと思います。
- 大学のカリキュラム・ポリシーに合致した教科書を選定する必要があるため。
- 自分がその教科書を選定しなければならない立場（その科目のコーディネーター）だから。メリットがあるかどうかはわからないが、同じ科目なのにそれぞれが違う教科書を使用しているのはおかしい。
- シラバス・進度・試験の統一性。
- 教育内容を概ね統一できる。
- 教員の判断に信用があり、教材を決める自由が与えられているから。同じレベルの複数のグループのために教員同士の間で教材を選ぶことがある。
- 「他の教員が使う教科書を選定する」のですが、正確には「他の教員と自分とがリレー講義で一緒に使う教科書を、その教員と相談して選定する」です。必要性はリレー講義だから。メリットは、使う当人の中で相談して決めるのが適切だと思うから（そのままですが…）。
- 複数クラスで同じ教科書を採用することで出版社に献本を要求しやすい(注：洋書の場合)。

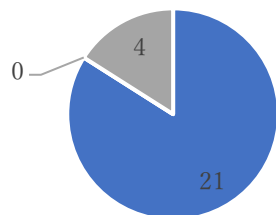
Q7-2 そのようにする際の問題点や問題点への対処方法等についてお書きください。

- 各教員の個性が生かせないと言われます。しかし、それは教科書プラスアルファの活動などで発揮していただければ…と考えています。そのためには教科書で教える内容や順番を多少教科書に沿わない形にする必要があるかと思います。
- 担当者によって説明方法や活動内容のよしあしに差が出てくる。
- その教材が使いにくいと感じる教員が出てくる。ただ、これは逆の場合もある（自分が他の教員が決めたテキストを使うこともある）ことで、その場合、仕事なので仕方ないと割り切り、限られた条件下でいかにわかりやすく教えるか、工夫すれば良い。
- 教員集団全体に対する選定理由説明と合意の形成が必要。

- すべてのクラスでその教科書がうまく機能しているかどうかを確認するため、教員同士のコミュニケーションを維持する。
- たいてい学期末にアンケートがあり、教科書がどうだったかそこで分析できる。評価がよくなければ、それをやめてもう使用しない。
- 履修者数が発注者数を超えると生協や出版社との交渉は自分が引き受けなければならないが、専任教員として教科書採択に責任を持っているので当然のことだと思っている。つまり、そういう事態が生じないように願っているだけで、別に問題点とは思っていない。
- 思い当たりません。

Q8 あなたはスペイン語の教科書の制作・出版に携わったことがありますか？

(現在制作中のものも含める)



- ある (本文 (モデル文・ダイアログ・文章、文法等の解説、練習問題) を執筆した)
- 補助的に関わったことはあるが、著者になったことはない
- ない

Q8-1 教科書を出版して「うまくいった」「よかった」と思えたことは何ですか？

- 各課の学習内容を読み物におりこむのに非常に苦労したが、最終的に全課でストーリーを作ることができた。
- 自分の勉強になった以外、苦しいことばかりでした。
- 良い経験になったこと、自分が思う説明方法で説明し、また自分が授業で扱いたい内容を盛り込めるので授業での補足プリント作成などの手間が省けること。
- これまで自らが使用していたテキストで不備・不足と感じていた点を補えた。
- 課の構成はほぼ希望通りでき、運用練習を多く取り入れることができた。
- 特定の学習者集団を想定し、その水準にあわせて作成したので、当該集団を対象とする授業ではよく機能した。
- 使いやすかったとか、おもしろいと言ってもらえると嬉しい。
- 学修者の興味のあるテーマ (アンケート調査によって取材) を教科書の内容として取り込めた。
- 自分が実践したい教育内容を盛り込むことができた。出版を通して自分自身がスペイン語を学べた。採用してくださった先生や使用した学生さんからコメントをもらえて励みになった。
- 内容が適している。
- 証明済みの教授法に基づいてデザインされていて、目的がはっきりしており、出版前に 2 年間の試験期間をとって必要な調整をしてある。

- 教員にとっても学生にとっても、現実的で、機能的で、実用的である。

【教科書ではないコメント】

- 一般書ではあるが、動詞の活用の順番など、今までとは違った順番で、かつ、そこそこシステムティックに仕上げられた点が、うまくいったと思えることである。

Q8-2 教科書の制作過程で「困難だった」「改善が必要だ」と思ったことや疑問に思ったことはありますか？

- すべてが困難だったが、もっとも困難だったのは教授法的なデザインを作ること。
- 必要な文法項目を盛り込みつつ邪魔な文法項目を排除し、かつ内容もある程度おもしろみのあるようなスキットを作るのが難しかった。
- 学修項目を少なくしようとして、かえって分かりにくいものになってしまった箇所があった。
- どういうレベルの学生をユーザーとして考えるべきなのかよくわからず困った。当初接続法過去まで扱うことを考えたが、日本ではそこまで1年で勉強するのは専攻学生ぐらいで需要が少ない。出版社の人とも話をして詰めるべきところであったと今にして思う。
- どの程度の内容まで扱うかの決定。説明等がわかりやすいかどうか、難解でないかなどを学生目線で考えること。
- どこまでの内容を扱うか。 その他の教科書との差別化。個性の出し方。
- ページ数の制限、どこまで文法的内容を扱うか、語彙数をどの程度に設定するか。
- 限られた紙幅で体系性を保ちつつ、簡潔に説明を行うことが難しい。
- 作った時は分かりやすいと思って簡略化したのが、実際使ってみるとむしろ分かりにくい気がした。
- 各課のバランスが難しい。
- 教科書のレイアウト（ページ構成）は一定だが、扱うテーマの分量がテーマごとに異なるので、それらを調整して1つの本としてまとめることが難しい。
- 登場させる語彙の選択が難しかった。
- 同じ練習問題ばかりではいけないと思いいろいろな問題を考えたが、後になって思えば、同じような問題を繰り返すことも必要だった
- [ねらいあるいは正解が?] 明確な練習問題を作ること。
- 自分が希望するのと異なるデザインが提示されると、企画の段階でデザイナーさんともっとやりとりできたらよいと思う。
- フォントやサイズ、文字強調の仕方などについてある程度事前にわかっているとそれに合わせて作りやすくなる。
- 複数の執筆者間の意見や仕事へのコミットに関する考え方の不一致など、あまり内容に関係ない部分が一番足かせとなりましたが、空白を作らないために自分としては入れたくないものを入れたり、編集者からこういうものはやめてほしいという注文に応えたり、という点にも難しさがありました。
- 新しい試みをお願いしても、前例がないからと編集者さんに断られた。校正は第三者に任せなかった。CDはもう要らない。音声も本冊

も容量に制限があり、なかなか思い通りにいかなかった。イラスト構成も意外と大変だった。

- すべて。文法カリキュラムからデザインや紙や配置の決定まで、そして何より、するべきことを言ってくれる大手出版社の助けなしに出版にこぎつけること。
- 出版社との校正作業。彼らは教育や教授法の専門家ではないから、細心の注意を払って全体を何度も確認しなくてはいけない。
- 制作のスケジュール管理が非常に難しい。

(教科書ではないコメント)

- 一般書の制作過程で、他書の例文を著者の承諾なしに採択するように言われた点。それから、ラテンアメリカのスペイン語を記述した瞬間に、書き直し、あるいは弊社からは出版できないといわれた。

Q8-3 あなたが出版した教科書の改訂版を出したことがありますか？ある場合、どのような改訂を行いましたか？自由にお書きください。

- 誤字脱字の修正はもちろん、内容を簡単にするためにかなり大掛かりな変更を加えたことがあります。
- 誤記の修正、練習問題の差し替え、教授用資料の見直し。
- 誤植の訂正をした。実情に合わせて古いことを削除したり新たなことを加筆した。
- ある。版を重ねるたびに改訂をする必要がある。我々の場合は、毎年。そこで文法やスペルミスなどの誤りがあれば直し、授業で機能しない練習問題を削除する。語彙の増減など。
- 内容（文、写真・・・）の更新と、誤りの訂正。
- 社会の変化に沿って用語を変更、また新たに取り入れたこと。
- よくない練習問題がたくさんあった（ので変えた）。
- 教授用資料をつけた。
- ない。(3)

Q8-4 あなたはあなたが出版した教科書を改訂したいと思いますか？思う場合、どのような改訂を行いたいですか？

- いずれは改訂したいと思います。
- 練習問題を変えたい。
- 思う。例文の内容がやや偏っていた部分についてもっとバランスを取りたい。レイアウトをもっとよくしたい（すっきりさせたい）。
- 誤記の修正、練習問題の増補および差し替え。
- 使ってみて、改善したい点が出てきた。
- 教室で提示できるパワーポイントをつける。レベルの高い学生さんのために補足の問題を添える。

- 一度出版した以上、これ以上改訂すると今の形で使ってくださっている人にとって迷惑だと思うので、自分としてはこれ以上は改訂しないと思います。
- 昔は実情に合わせて、改変していくことがよいことだと思っていたが、版が異なった場合に大きく変貌していると、授業を行う側はやりにくいということが頭をよぎる。誤字脱字を修正するだけにとどめるべきなのか、内容も大きく変えるべきなのか、出版社側の意見を聞きたいところである。
- 思わない。(2)

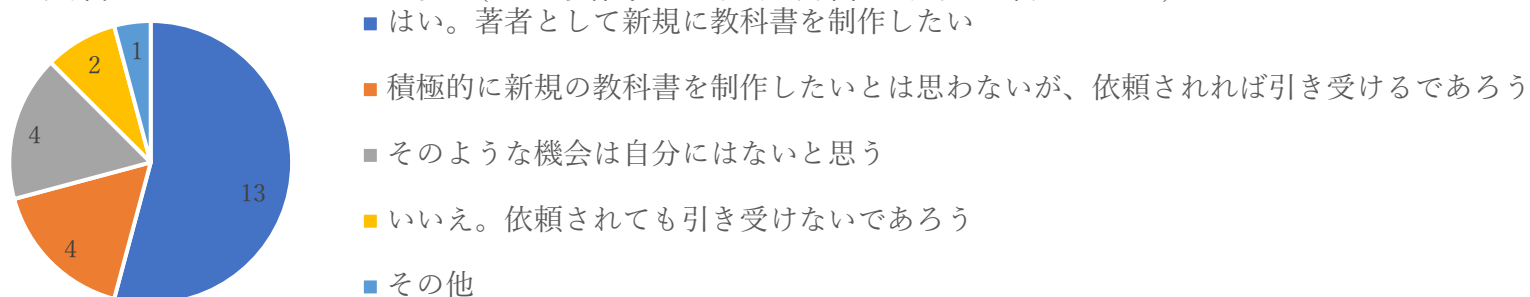
Q9 今後「購入者（学生）にとってよりよい教科書」が作られていくために、制作時にどういう工夫や配慮がなされることが望ましいと思いますか？

- 【文法】全部覚えるようなものではなく、こうすれば覚えられるような著者なりの秘策がコラムで盛り込まれているとうれしい。がむしやりに覚えたというのなら、その勉強に費した時間など、学生のとときの体験談を書いてほしい。
- 文法中心のテキストであっても、機能レベルや語用論レベルでどういう項目を扱っているか各課の目次に明記したほうが良いと思う。
- 文法と語彙が適切な提示順になっていなければならない。
- 初級文法教科書であっても、同じ単語の繰り返しを可能な限り避けて、各課均等に新しい語彙が含まれているとより良いと思います。
- 【講読】昔のように、名文を（文学作品から）適宜引用してほしい。
- 【総合】個人的にはこの「総合」というテキストは不要である。オールラウンドプレーヤーであるがゆえに、かゆいところに手が届いていないため。
- 【全体】締切に追われて、無鉄砲に執筆していくことは避けるべきである。著者略歴、少なくとも現在の所属と何が専門かは絶対に書いてほしい。
- 様々な学習目標にそった教科書が学習目標ごとに作られるといいのかもしれませんが。
- 適切な授業計画、レベルと時代にあった教科書の選定、知識を広げるための補助教材やリンク、学生たちに合った教科書、よく工夫されたいろいろなアクティビティー…
- 新出語彙がわかりやすい。テキストに書き込む学生が多いので、学生からみれば、書込みスペースが多いほうが良いように思う。
- 練習問題と対話が実用的で現実的であること。(会話)
- 当該学生集団の特性（専攻分野、学力、学習環境など）にあわせる。
- 改訂がある程度年数が経つと必要だと思う。改訂されていないので今の学生たちに合わないような例文が出ている。例えば「手紙を書きます」といった文などが出ているが、実際今の学生たちは手紙を書くより、メールやライン、SNSを使うのでそういった文を出してもらう方が、興味を持つと思う。

- たくさんあるが、特に、教科書を商品としてとらえる考え方を換え、教材として教科書を重視すること。そのためには、大手出版社が著者たちに自由に作らせること。同じようなスタイルの型にはまった、時代にそぐわない教科書が毎年のように出版されるのはうんざり。
- オーソドックスな形にこだわらずに、個性をだしていくのはどうでしょうか。また日本人学修者がもともと肌感覚で親近感のあることを織り交ぜて外国語学修に対する心理的距離を感じにくくするとか。関西であればお笑いとか粉もののが好きなスペイン人がやってくる、とか。ヨーロッパで活躍する日本人アスリートの苦労話とか恋愛とか買い物とか。あるいは Olla が日本の「おじや」だった話とか、絵本とかおとぎ話とか。時々、モモタロウの一部をスペイン語で読んでみるとか。昔話はだれもが知っている話なので、気軽さがあるように思います。販売部数を考慮すると取り組みにくいとは思いますが。
- まず、文字が見やすく、学生が誤読したり無視せずちゃんと文字情報を追えるようにできるような推奨フォントやフォントサイズがあるとよいと思う。なるべく障壁なくスペイン語そのものにアクセスできることが大事。
- イラストが学生の理解やモチベーションを上げるものになっているか(少なくとも下げるものになっていないか) 一度吟味してもよいと思う。
- その教科書を授業で使い終わった後にも役立つような配慮をするとういと思う。
- 紙媒体と電子デバイスとの連携
- コスパを重視。授業で使い切れない量にしない。一冊で全て対応できるようにする。補助教材など配られると、邪魔で仕方がない。
- わかりません

Q10 今後教科書出版（著者として）の機会があれば、出版に携わりたいですか？あなたの気持ち

に最も近い回答をお選びください。（この質問では、既刊書の改訂は除きます）



Q10 「その他」内訳

- 編集者が編集段階の執筆原稿で勉強して行ってほしい。そのような依頼をされたいと思う。

Q10-1 その新しい教科書の制作を通してどのようなことを実現したいですか？もしくはどのような教科書にしたいですか？

- 専攻用であれば、それ1冊で参考書にも練習問題集にもなれるような充実したもの。文法学習用と講読用とは別でもいい。第2外国語用であれば、その言語で何がしたいか（単なる旅行会話でもいいけれど・・・）にも配慮した上で、その言語を体系的に知ることのできるような教科書。日本語との違いに着目できるような発想で、言語を学ぶ楽しさに触れられるような教科書が理想。
- 自身が担当する授業で使える内容・レベルのものを制作したい。
- CEFR A2～B1 レベルの総合的テキスト。このレベルのテキストの選択肢が少ない。
- 講読のテキスト制作には興味がある。現在日本の出版社から出ている講読テキストは教養的な要素が前面に出ている、文章読解能力そのものを養うのに適しているとはあまり思っていない。
- （PISA の結果とは無関係で）読解力がつくような練習問題や解説を提供したい。また、辞書を使って読み進めるのが楽しいような内容のものにしたい。
- 先に述べたことを取り入れてみたいです。[「先に述べたこと」の内容:教室で提示できるパワーポイントをつける。レベルの高い学生さんのために補足の問題を添える]
- 学生、教師にとって、使いやすい教科書。アレンジしやすい教科書。
- まったく新しい提示方法を提案し、モチベーションがそれほど高くない学習者でも、学習後に意味のある産出が少しでも多くできるような教材を作りたい。
- 学生たちにとって分かりやすく魅力的な教科書。
- 他の国でスペイン語を学んでいる外国人たちと同じ知識を日本の学生たちも得られるような教科書。

Q10-2 新しい教科書を制作する場合、出版社との関係で疑問、提案、希望等がありますか？

- [専攻用については？] 第二外国語向けの教科書と比べて需要が少ないはずなので、あまり売れないと思いますけど大丈夫ですか？ 同時に、競合する教科書も少ないということになります。
- アプリ対応。新しい試みの取り入れに歩み寄って欲しい。
- 定番を求められて革新を生みにくい。
- まだ特に思い浮かびませんが、デザインはわりと一方的に決められるのが疑問です。もうちょっと色使いとかデザインがオシャレな方がうけるかなと思います。
- もっと [たくさんなの？いろいろな？] 内容を盛り込む自由がほしい。
- 同じ教科書を名前だけ変えて何度も出版するのはやめた方がいい。
- 今さらながらの疑問だが「編集者」とは誰のことなのだろう？また、制作から販売までのプロセスはどうなっていて、著者はどうかかわるのだろうか？

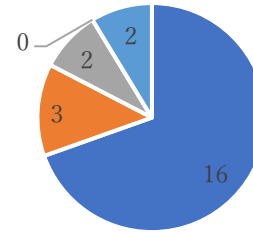
Q10-3 新しい教科書を制作する場合、その教科書を採用する、もしくは使用する教員との関係で疑問、提案、希望等がありますか？

- どのテキストを使ったとしても、完璧に自分の意に即するものはないと捉え、テキストはあくまでシラバスの指針であり、自身でアレンジして使うものだと思って欲しい。
- 採用される先生がどのように教科書を利用されるかは先生の自由だが、教授用資料以外に、採用される先生とやりとりをして、利用方法の提案をしたり、また改善の提案を受けたりできればよいと思う。
- 使い方を本文で簡単に提示して、コミュニケーションが取りたい（教科書ガイドのような別冊一冊で対応できたら理想）。
- 教員たちに教科書の文化的内容を使ってほしい。
- 特に思い浮かびません。

Q11 教科書の出版と流通、販売促進等出版社が関連することについて、この機会に知りたいことがあればお書きください。

- 初級スペイン語教科書がどんどん出版される理由が知りたい。これまでに出版されているものと新しいものは、本当に根本的に違うのか？例えば1冊執筆した著者に、それをさらに良くしたものを依頼するなどして、まったく別物ではなくグレードアップを狙うということは、出版社としてあまり望ましくないのか？
- 出版社はなぜ新しい教科書をあんなにたくさん出版するのか。
- 葉でいうジェネリックのような、他書をまねた教科書をたくさん出版しているような印象があるが、出版社側では、他書に似ているかどうかのチェックをしているか、知りたい。
- 現在、文法中心の教科書と、いわゆるコミュニケーション重視と言われるような教科書と、全体としてどちらがよく売れているのか？
- 一般書と比べて教科書は薄いのに値段が高い。それはなぜか知りたい。
- デジタル教科書の明確なビジネスモデルはいつできるのか？つくるつもりがあるのか？
- 関係ないかも知れませんが、量産した後の在庫、環境への配慮などはいつも気になります。
- 教科書は一般書店では買えない。大学の教科書は文科省検定は関係ないが、一般書籍と扱いが違う。参考書とはどのように区別されているのか？
- 教科書の宣伝はどのようにされるのか。

Q12 著作権に関して、あなたの行動や考えに近いものを選んでください。

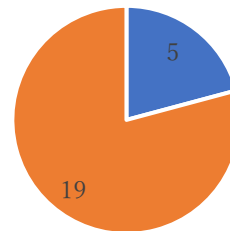


- 著作権に配慮し、その授業で通常使用する教科書以外の教科書をコピーして配布することはなるべく控えている
- 著作権に配慮が必要であることはわかっているが、他の教科書のコピーを学生に配布することがしばしばある
- 著作権を意識することはないが、他の教科書のコピーを学生に配布する習慣がない
- 著作権についてはあまり考慮したことがない。授業にとって役立つと思えば、他の教科書のコピーを随時学生に配布している
- その他

Q12 「その他」の内訳

- 正確には2番目の状況で、「しばしば」より頻度が少ない。それとさすがに無断引用は気が引けるので可能な限り引用元明記をプリントに書き加えている。

Q13 近年、出版された教科書（つまり紙媒体の教科書）ではなく、電子媒体の教科書も話題になっています。あなたは電子媒体の教科書を使ったことがありますか？



■ ある ■ ない

Q14 自作プリント、電子媒体の教科書、生教材等いろいろな教材がある中で、紙媒体の教科書が他の教材より優れている点があるとしたら、どのような点だと思いますか？

(この質問においては、「生教材」とはスペイン語教育以外の目的で作られていながら教員がスペイン語教育のために使用するものを指します。音楽、映画、ネット記事などが含まれます。これらを組み込んだ教科書は、生教材ではなく教科書となります。)

- 手で書くという行為が学習につながると思う。紙媒体の教科書は物理的に大きい傾向にあるだろうが、一覧性があるので学習効果は高いと思う。「あのページの左上にあった」などの記憶は意外と残りやすい。
- 学生も教員も書き込みがしやすい。
- 自由に書き込めること。
- 書き込みがしやすい。見直しが楽。
- 持ち運んで書き込んで勉強できる。いまだに多くの学生が試験前に紙で勉強しているのを見ると、やはりそれがやりやすいのではないかなと思う。
- 使ったことがないのでわからないが、PC やタブレットを持ち歩く習慣のある学生は僕の経験ではそれほど多くないので、電子媒体の教科書の場合、学生の多くはスマホで見ることになるのではないかな(授業ではそうでないのかもしれないが、授業以外の部分、予習などではそのように想像する)。少なくとも自分の世代からすると、そのやり方が効率的であるようには思えない。一覧性がないし、書き込みの自由度も限られる。
- メモを取れる。目が疲れない。よって、ストレスが少ない。
- ここにふさわしい内容ではないと思いますが、電子媒体過多に疑問を感じます。電磁波や目への影響が心配です。目が疲れている学生さんが多いように思います。
- 利用環境を問わない。
- 辞書を使いこなせない学生にとっては、ほぼ唯一のスペイン語の縁となるであろう点です。[世話役2名ともこのコメントの意味が理解できませんでした]
- 私自身は使っている教科書に出ている例文などを使って、会話練習用プリントなどをよく作成するが、プリントはその年度の授業が終わると、おそらく大半が散らばったり、捨てられると思う。その点、教科書は一冊の本としてあるので、学生たちは必要なときまた読み返せてよいと思う。
- 1冊の本として「知識や情報のまとめり」になっている。バラバラにならない。電子媒体だとついついインターネットで他のサイトを見て気が散ってしまうが、紙教科書だと教科書の内容に集中できる。改訂しにくいので逆に慎重に作られている。全体像があり、構造化されていて、そこに自分の書き込みがあってカスタマイズされるし、「だんだん進んでいく」やりがいもあると思う。

- いずれかをとるのではなく、すべての教材を組み合わせたり利用したりすることは可能。「言語の習得と実用」という最終目的を達成するために役立つものはすべて使わなければいけない。
- 適切に使用されればどちらもよいものだと思う。
- インターネット環境がなくてもいつでも見たり使ったりすることが容易である。
- 優れている点があると思わない。
- あるでしょうか…

Q15 「購入者（学生）にとって価値のある教科書」とはどういうものだとお考えですか？

- 十分に学習に利用されるもの。学修において不足のないもの。
- 学習に何らかの形で役立つ書籍。
- 限られた授業数では難しいとは思いますが、一冊をやり終えられれば充実感を得られると思います。
- 授業でわかった、なるほど、へえーそうか、などと思ってもらえること。
- 大事なことは、学生たちが学ぶ意欲を感じることで、(授業で) 教えられる内容が彼らの役に立つこと。
- コース内容と密接に結びつき、それがなければ履修が不可能なもの。
- いろいろ書き込むことで学生各自が使い込んだと自覚できる教科書。
- その場限りで終わらない教科書。つまり、コース終了後も必要に応じて、参照したくなる教科書。
- 自分が学生だったときは、コンパクトで軽くてすべての項目が載っていて、携帯していつでも参照できる教科書が好きでした。
- コース終了後も参考資料として利用できる教科書。
- 実際に知識や技能が身に着くことが大切だが、すぐには身に着かないことも多いので、後から見直して何度もそこに戻って長期的に力を養っていくもの。なので、何度でも見たくなるような魅力がどこかにあることが必要だと思う。
- 学生が授業で使ったあとも必要なとき読み返したくなり、少し実用性のあるもの。例えば巻末に方角とか四季、通貨についての記述があったりすると、授業が終了したあとも役に立ち、価値があるのではないかと思う。
- 自分で勉強するのに使える教科書。
- 授業で使用されるだけでなく、自分で勉強するためのガイドにもなるような教科書。
- 独習しやすいもの。
- 教師にとってストレスのない教科書が価値ある教科書。
- 何に価値を見出すかが学生個人で異なると思うので、私にはなんとも言えません。

Q16 スペイン語の教科書に関すること全般について、コメント・疑問・希望・提案等ご自由にお書きください。

- 教育機関のカリキュラム・ポリシーに合致した教育を行うためには、基本的には教育機関毎に教科書を作成する必要がある。それをしないなら、教育という面では、専任教員が不要と言ってるに等しい。
- すでにそうである人たちは別として、日本のスペイン語テキスト著者はもう少し CEFR を勉強し、教えるべき項目の厳選をおこなうべき。CEFR は日本の教育指導要綱とは異なり、それをたたき台にして教師(たち)が自分の学生にとって最善だと信じることを教えるためのヒントである。
- 「なんとなく慣行に従い従来の内容や自分が習った内容に自分の好みを足して作る」、というより、「長期的な視野（何のために教えるか）」に立って、長期的目的に向かって0からスタートするような教科書が増えてほしい。「もっと読み進めたいくなる」ような「本として楽しめる」教科書が増えてほしい。難しいかもしれないが、考えるのは楽しいと思う。
- 先にも述べたが、日本の市場では大手出版社が教育より商売を目的として教科書を出版している。コストを抑えるために、古くさくページも少なく最大2色か3色刷りの教科書であるのが現状だ。それこそ必要であるはずの「視聴覚教材」は、わずかしかないか、まったくついていない。一般的に、日本の教科書出版業界はとても低レベルだ。
- 初級の教科書は、毎年のように新しいものが出版されるが、それ以上のレベルで使いやすいものが十分ではない。
- どうしても、活用や文法事項をすべて網羅したくなる、教員と教科書作成者のニーズが優先される現状を変えないと同じような教科書が出続けるでしょう。
- 初級学習者に対してまで詳しい文法説明をしすぎていて、学生たちの意欲を下げる。例文などが実際の現実世界で通用しない。
- 古い教科書はよくできていると感じる。ところが、今、自分が習ったときの教科書を採用したくても在庫がない。
- スペインの（スペインで作られる）教科書には語彙が多すぎる。日本で作られる教科書は不自然。
- 今の私には考えれば考えるほどもやもやする、悩ましいものです。